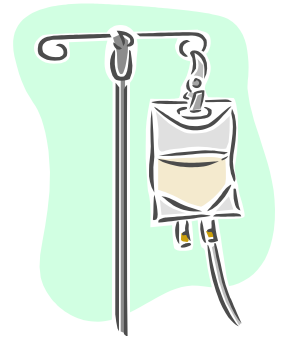


今回は、血液科部長伊豆津宏二先生に、昨年から現在にかけて実施中の『リンパ腫の治験』について紹介していただきました。



## リンパ腫の治療は今！？

リンパ腫にはさまざまな組織型（タイプ）があり、組織型によって臨床像や予後、治療法が異なります。リンパ腫に対する治療の中心は化学療法です。最も頻度の多い『びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫(DLBCL)』では、抗 CD20 抗体リツキシマブを併用した化学療法 R-CHOP(アールチョップ)療法を行うのが標準的治療です。R-CHOP 療法では 3 週間毎に 1 回の点滴治療を(ほとんどの場合、通院で)合計 6 回行います。DLBCL では R-CHOP 療法により半数以上の患者さんの治癒が期待できますが、より有効性の高い治療法が望まれています。一方副作用として、脱毛が必発で、好中球数が $<500/\mu\text{L}$ になる日が数日あったり、末梢神経障害や高度な便秘の頻度が高かったりと注意を要します。このため、より副作用の少ない治療法も求められています。

## より副作用の少ない治療を目指して！

**【未治療インドレントリンパ腫（濾胞性リンパ腫に代表される経過のゆっくりしたリンパ腫のタイプ）・マントル細胞リンパ腫に対するリツキシマブ・ベンダムスチン併用療法(BR 療法)】**

海外での臨床試験で BR 療法は、R-CHOP 療法と比べて再発なしで過ごせる期間が長く、しかも骨髄抑制、脱毛、末梢神経障害（しびれ）などの副作用が少ないということが示されています。今のところベンダムスチンの国内での適応が再発・難治性に限定されているため、未治療例での有効性と安全性を確認するための治験を実施中です。

**【持続作用型（PEG 化）G - CSF と G-CSF の無作為化対照試験】**

化学療法後の骨髄抑制で最も問題となるのが好中球減少症です。G-CSF を用いると好中球減少症を軽く、期間を短くすることができますが、連日の皮下注射が必要となります。PEG 化 G-CSF は、化学療法後に 1 回皮下注射を行うことにより G-CSF を連日注射するのと同等の効果があり、外来治療の際に用いることができれば、患者さんがより安心して治療を受けることができると期待されます。



ちけんくん

## より効果的な治療を目指して！

**【未治療 DLBCL に対する GA101 併用 CHOP 療法と R-CHOP 療法の無作為化対照試験】**

より高い効果が期待される新規抗 CD20 抗体 GA101 を併用した CHOP 療法が R-CHOP 療法よりも実際に効果が高いかどうかを評価するための治験です。この試験は世界中の国が参加する国際共同治験（グローバル試験）として行われています。現在、薬の開発は世界規模で行われることが多くなっており、この治験もその一つです。

問い合わせ

本院治験事務局 3430

CRC 室 3420

分院治験事務局・CRC 室 5317

（血液内科 部長 伊豆津宏二）

次回は、2012 年 10 月発行予定です。